

小学校（学齢期）における「個別の教育支援計画」作成・活用のポイント

<個別の教育支援計画を作成・活用するメリット>

- 担任や保護者が、本人の課題だけでなく、よさに目を向けられるようになります。よさに注目することにより、本人が認められる機会が増え、自信をもって取り組めるようになります。
- 定期的に支援会議を開くことにより、よさや課題を共有しながら、支援を進めることができます。
- 指導する際に環境調整をしながら進めることにより、本人が周囲と関わりながら学習できるようになります。また、支援の手立てを学校全体で共有することで、一貫した指導ができるようになります。
- 中学校との引継において、子どもの実態や取り組んできた支援内容等を提示することにより、子どもに適した継続した支援を行うことができます。

■場面に応じた関わり方について支援することにより、良好な関係で友だちと学習できるようになった事例

<子どもの実態と抱えている課題>

- ・人なつこく、興味のあることには積極的に取り組むことができる。
- ・自分の行動・感情のコントロールが難しく、衝動的な行動も多くみられる。
- ・周囲とトラブルになることが多い。

実態の把握

年 月 日作成

関係担当者名： ○○小学校 担任：○○○○

項目	できること・得意なこと		気になること	
	お子さんの様子	場面・状況	お子さんの様子	場面・状況
	本人の力でできたこと、できること。よい変化など。	本人がうまくできるための助けになる状況、物や人など。	本人の力でできづらいこと、苦手なこと。気になる変化など。	本人が力をうまく出せないことに関わる状況、物や人など。
生活	ここに記入することは、睡眠、食事、排泄、衣服の着脱、清潔習慣、生活時間や行動範囲など、生活全般についてです。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の見通しをもたせることで、安心して生活できる。 ・信頼関係のある仲間や先生に、挨拶ができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・体調のよくない時には、ぼんやりしたり、興奮したりしやすい。 ・偏食があり、食事量が少ない。 ・興奮して食べられない時がある。 	
行動等	ここに記入することは、行動や性格の特徴、感情の起伏や気持ちのコントロール、敏感や鈍感さなどです。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちや周囲の状況に気付くようになってきた。 ・身体を動かすことが好きである。 		<ul style="list-style-type: none"> ・不安なことがあると、活動に取り組めない。 ・ボディイメージが弱く、動きにぎこちなさが感じられる。 	
学習	ここに記入することは、教科学習の状況、家庭学習の様子、学習意欲など、学習全般についてです。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や計算に自信をもっている。 ・わかることを、仲間に教えることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・長文を読むことや文章問題に取り組むことが苦手である。 ・少しでもつまずくと、気持ちがなえてしまう。 	
人との関わりや場所の理解など	ここに記入することは、大人との関係や友達関係、「ことば」などのコミュニケーションの様子、状況やルールの理解などです。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている仲間に対して、助けようとする行動がみられる。 ・仲間を遊びに誘うことができるようになってきた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【作成する際のポイント】 <ul style="list-style-type: none"> ・読む人に伝わるよう分かりやすくまとめることが大切。 ・具体的に、短い言葉で書きます。 ・場面や状況を明確にします。 </div>		<ul style="list-style-type: none"> ・言葉より先に行動してしまい、トラブルになることが多い。 ・人の視線を気にして、本来の力を発揮できないことが多い。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【活用する際のポイント】 <ul style="list-style-type: none"> ・校内支援委員会では、それぞれの見立てが「個別の教育支援計画」に反映されるよう、メモや付箋を使って、よさと課題を明確にします。 </div>	

関係機関との連携

子ども支援センターやことばの教室、相談・支援のこと（No. ）

番号	保護者もしくは担当者が記入		保護者が記入
	日付 機関・担当者名	内容や結果等	子どもの様子 (経過や家庭でやってみたこと、変化があったこと やエピソード等)
1	平成〇年〇月〇日 〇〇療育センター 担当 △	個別指導 集団での活動	<ul style="list-style-type: none"> 課題に集中して取り組めるようになってきた。 仲間に会えることを楽しみにしている。 友だちとのやりとりがスムーズになってきた。
2	平成〇年〇月〇日 デイサービス 担当 □	放課後支援	<ul style="list-style-type: none"> 困ったことを自分から言えないことがある。 宿題や課題に進んで取り組むことができる。
3	平成〇年〇月〇日 〇〇小学校ことばの教室 担当 △	ことばの発達の遅れについて	<ul style="list-style-type: none"> 集団の中で、ことばを使って自分の気持ちを伝えようとするようになる。
		【作成する際のポイント】 <ul style="list-style-type: none"> 関わっている機関での子どもの様子を記入します。 成長がみられた時や助言を受けた時のことを記録します。 具体的に、短い言葉で書きましょう。 場面や状況を明確にしましょう。 	【活用する際のポイント】 <ul style="list-style-type: none"> 支援の手立てを検討する際に参考となります。 分からないことは、関係機関に問い合わせるなどして、日常的に実態交流に努めます。

医療・療育機関・相談・支援のこと（No. ）

番号	保護者もしくは担当者が記入		保護者が記入
	日付 機関・担当者名	内容や結果等	子どもの様子 (経過や家庭でやってみたこと、変化があったこと やエピソード等)
1	平成〇年〇月〇日 〇歳検診 担当 △	身体測定など	<ul style="list-style-type: none"> 保健師より、言葉の遅れを指摘される。 療育センターを勧められる。
2	平成〇年〇月〇日 〇〇病院 担当 ◇	発達相談 耳鼻科受診 (アレルギー性鼻炎)	<ul style="list-style-type: none"> 経過観察 診察・処置 投薬
3	平成〇年〇月〇日 〇〇児童相談所	教育相談	<ul style="list-style-type: none"> 発達検査実施
			【活用する際のポイント】 <ul style="list-style-type: none"> 検査結果等があれば、資料として添付します。 校内支援委員会で、検査結果や助言を基に、支援の方向性を検討することができます。

「個別の教育支援計画」

年 組 (歳 か月) 氏名
作成年月日 年 月 日 記入機関・記入者

メイン支援機関の希望・願い

- ・自分の思いを表現できるようになってほしい。
- ・仲間の中で、よさを発揮できるようになってほしい。

【作成する際のポイント】

- ・把握した情報を参考に、よさ・課題をまとめます。
- ・各関係機関が共通理解できていることを確認しながら作成します。

いまの様子（現状把握）

今後の手がかり

- ・時間の見通しをもたせることで、安心して生活できる。
- ・自分の気持ちや周囲の状況に気付けるようになってきた。
- ・漢字や計算に自信をもっている。

気になること

- ・言葉より先に行動が出てしまい、トラブルになることが多い。
- ・不安なことがあると、活動に取り組めない。
- ・長文を読むことや文章問題に取り組むことが苦手である。
- ・ボディイメージが弱く、動きにぎこちなさを感じられる。

長期目標：（ 2 ）年後を見通した目標

- ・周囲の状況や自分の感情に目を向けて、行動をコントロールできるようにする。

【作成する際のポイント】

- ・長期目標はおおよそ1～2年間、短期目標は3～6ヶ月を目安とします。短期目標を設定する際には、長期目標を達成するために必要な具体的な支援の場面や数値目標を入れるとより明確な目標となります。

短期目標：（ 6 ）か月内の達成目標

- ・困っている状況を言葉で表せるようになる。

【活用する際のポイント】

- ・関係者の合意形成を図り、目標を設定します。
- ・本人にも、目標を分かりやすく提示し、意識付けすることが大切です。

支援の手立て

本人への働きかけ

- ・「感情レベル表」を活用し、自分の状況を視覚的に把握できるようにする。
- ・行動そのものを否定するのではなく、背景要因に目を向け、本人の思いを尊重しながら、プラスに評価をする。
- ・適切な関わり方を事前にシミュレーションする時間を確保する。

環境調整の工夫

- ・学習の始めに、見通しのある工程表を示す。
- ・説明をする時には、絵や図・文字で視覚的に示す。
- ・仲間の様子を言語化して伝える。

【作成する際のポイント】

- ・よさや課題を生かし、各関係機関でできることを検討します。
- ・具体的に、短い言葉で書きます。
- ・場面や状況を明確にします。

- 平成27年〇月〇日：運動会の総練習では、事前にシミュレーションした関わり方ができた。できたことをしっかりほめたところ、本人も満足し、意欲的に取り組む姿がみられた。
- 平成27年〇月〇日：休み時間に遊んでいる時、楽しくなりすぎて、友達にしつこくしてしまった。シミュレーションで学んだことを用いて振り返ることにより、相手の気持ちに目を向けて適切な関わり方を考えることができた。